キャリアアップ通信

Vol.5　3月号

発行：医療局職員課

はじめに

皆さん、こんにちは！岩手県医療局職員課人事担当です。３月に突入し、年度末の慌ただしい時期となりますが、少しずつ感じる春にワクワクする今日この頃です。

県立病院において資格取得し活躍している職員紹介の第５号をお届けします。今月は認定看護師（認知症看護、摂食・嚥下）、認定薬剤師（緩和薬物療法）の３名の皆様を紹介します。ぜひ今後の参考にしてください。

認定看護師への道　（緩和ケアなど 17 分野 97 名）

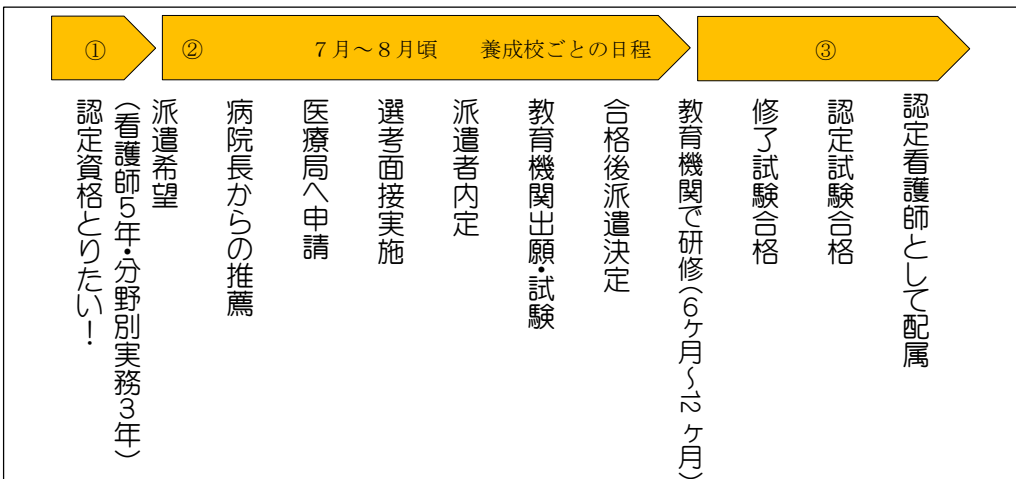
特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができる看護職員を養成しています！

【対象】・**概ね看護師経験５年以上（うち認定看護分野での実務３年以上）で 40 歳以下**の看護職員から選考
・派遣機関の入学試験に合格し受入が認められた者

【服務の取り扱い】
・派遣中は出張の取り扱いとし、旅費等を支給
・派遣中も**給与を支給**
・入学試験及び修了試験等に出席するための旅費を支給

【取得までの流れ】

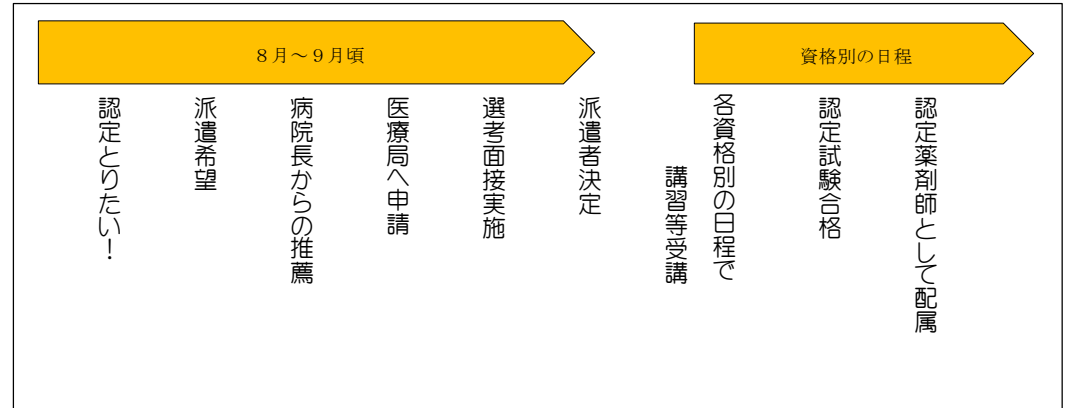
① → ②　７月～８月頃　養成校ごとの日程 → ③

- 認定資格とりたい！（看護師５年・分野別実務３年）
- 派遣希望
- 病院長からの推薦
- 医療局へ申請
- 選考面接実施
- 派遣者内定
- 教育機関出願・試験
- 合格後派遣決定
- 教育機関で研修（6ヶ月～12 ヶ月）
- 修了試験合格
- 認定試験合格
- 認定看護師として配属

認定薬剤師への道　（がん薬物療法など５分野 48 名）

高い専門性が求められる特定領域の認定薬剤師を養成しています！

【対象】
特定領域の認定資格取得を志す薬剤師から選考

【服務の取り扱い】
・講義研修及び認定申請に必要な講習会の受講や認定試験受験のための旅費を支給
・研修、講習会等参加費、認定試験受験料、認定審査料及び認定料は医療局負担

【取得までの流れ】

今年度紹介した方々

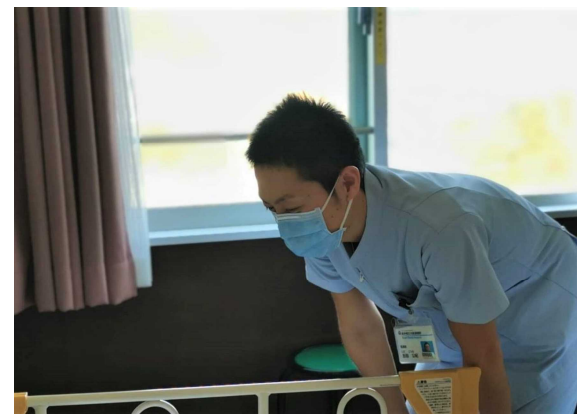
職種	資格名	所属	役職	氏名	掲載号
看護	緩和ケア認定看護師	胆沢病院	総看護師長	伊藤ゆかり	Vol.1
看護	皮膚・排泄ケア認定看護師	中央病院	特任看護師	小野寺直子	Vol.1
助産	助産師内部養成による助産師	宮古病院	助産師	山﨑朋絵	Vol.1
薬剤	緩和薬物療法認定薬剤師	中央病院	主査薬剤師	高橋典哉	Vol.1
看護	感染管理認定看護師	磐井病院	主任看護師	松澤亮	Vol.2
看護	慢性疾患専門看護師	軽米病院	主任看護師	千葉美香	Vol.2
放射	放射線治療専門放射線技師	中央病院	主任放射線技師	横澤淳司	Vol.2
リハビリ	認定理学療法士	胆沢病院	理学療法士	小坂直樹	Vol.2
看護	救急看護認定看護師	胆沢病院	主任看護師	小野寺真知子	Vol.3
検査	細胞検査士	中央病院	臨床検査技師	佐藤昂	Vol.3
事務	診療情報管理士	中央病院	主任	吉田誠一	Vol.3
助産	助産師内部養成養成校合格	磐井病院	看護師	下田美和	Vol.4
工学	専門臨床工学技士	胆沢病院	臨床工学技士	川崎直人	Vol.4
栄養	病態栄養認定管理栄養士	東和病院	主任管理栄養士	齋藤亜矢子	Vol.4

医療局ホームページでバックナンバーを掲載してますのでご覧ください☆

【問合せ：医療局職員課人事担当 ☎019-629-6861　研修担当☎019-629-6321】

認知症看護認定看護師

大船渡病院　5西病棟　看護師

志田　公紀　さん

Q　**資格取得のきっかけを教えてください**

急性期一般病棟、精神科病棟を経験してきましたが、どの病棟でも多くの認知症患者が急激な環境の変化に適応できず混乱し、医療者も対応に苦慮していました。認知症患者への身体拘束により、患者と家族の希望に添えない結果となった苦い経験もあります。認知症患者と家族がその人たちらしく豊かな生活を過ごせるケアや環境を提供したいと思い、志望しました。

Q　**取得までの流れはどうでしたか**

出願要件を満たす部署で実務を重ねながら、認知症にかかわる学会の資格取得をするなど自己研鑽に努めました。医療局の認定看護師教育課程派遣で内定をいただき、希望する教育機関に合格。約７か月間の研修を修了後、認定審査に挑みました。

Q　**研修中の様子を教えてください**

20 代～定年間近の様々な年代の方たちと、困難事例、課題、ケアについて率直に話せることがとても楽しかったです。レポートや実習など大変なことも多々ありましたが、仲間たちと乗り越えてきたことも良い思い出になりました。

Q　**資格取得後の院内での活動を教えてください**

病棟に所属し、病棟業務をしながら 2.5 日/週を認知症ケアにかかわる業務に携わっています。認知症ケア委員会の開催、認知症ケアチームでのラウンド・カンファレンス、研修会や勉強会の実施などを行っています。認知症や身体拘束にかかわるデータの収集、分析を行い、活動の方向性の提示なども行っています。

Q　**一日のスケジュールを教えてください**

専任業務の日は、各患者さんを訪問し、認知機能や精神症状、困っていることや提供してもらいたいケアなどを確認しています。その後、認知症ケアチームでラウンドし、病棟看護師とカンファレンス後に個別性のあるケアが提供できるようにしています。活動に対して周囲の理解が得られやすいように、データ収集、分析、結果の提示も行っています

Q　**これから資格取得を目指す方へのアドバイスをお願いします**

委員会等での仲間づくりを強く推奨します。活動するうえで間違いなく大きな力になります。研修会や学会へ積極的に参加してください。自己研鑽だけではなく、所属機関や医療局、教育機関の選考に役立つと思います。

Q　**最後に一言お願いします**

同じ志をもつ仲間と数カ月間ともに学べることは大変貴重な経験、財産となります。不安もあるかと思いますが、勇気を出して認定看護師を目指してみませんか。一緒に頑張りましょう！

摂食・嚥下障害看護認定看護師

千厩病院　看護科　主任看護師

大下　恵　さん

Q　資格取得のきっかけを教えてください

消化器内科病棟勤務時、水分や食事でムセたり発熱したりすると、絶飲食となり胃瘻造設を勧めていた頃がありました。それでも、患者・家族から「食べたい」「食べさせたい」「かわいそう」等の訴えを聴くことがありました。その想いをどうにかできないだろうかと思い調べると『嚥下訓練で楽しみ程度でも経口摂取する方法がある』ということを知りました。しかし、3 食の食事で統一した関わりを持つにはスタッフの協力が必要であることから、摂食嚥下障害看護認定看護師の資格を取得しようと思いました。

Q　取得までの流れはどうでしたか

2009 年 8 月　医療局面談　　2010 年 6 月　認定看護師教育機関（2 カ所）受験、合格　　2010 年 10 月～2011 年 3 月　愛知県看護協会認定看護師教育課程「摂食・嚥下障害看護」分野受講、修了　2011 年 5 月　認定看護師本試験受験　2011 年 7 月　合格、活動開始　2016 年 6 月　認定看護師 5 年更新

Q　研修中の様子を教えてください

覚えることがたくさんあり、レポートやグループワーク等も多く、休む余裕はありませんでした。しかし、32 名の掛け替えのない仲間と出会い、学べたことは一生の宝です。励まし合い、笑い合い、助け合いながら半年を乗り越えられました。

Q　資格取得後の院内での活動を教えてください

食事に関わる歯科回診・NST 回診のある水曜日、摂食嚥下外来のある木曜日の週 2 回活動しています。どの分野の認定看護師も「実践」「指導」「相談」の三本柱で活動しています。私の分野は嚥下評価や嚥下訓練、口腔ケア等の直接的・実践的なケア、3 食の食事介助を統一して行ってもらうためのスタッフへの指導と、退院された後もなるべく同じような食事内容、食事介助方法で関われるように患者・家族・施設職員等への指導、様々な状況下での悩みや困難例に対する相談を行っています。また、嚥下と口腔ケアのコアナースの育成を行い、ケアの質の向上を目指しています。

医療局業務等検討委員会認定看護師部会の摂食嚥下分野では、平成 27 年度に『摂食嚥下障害看護ガイドライン』を作成し活用してきました。今回、誤嚥・窒息のリスク管理について加筆し、改訂しました。是非、ご活用いただきたいと思います。また、介護者向けにではありますが、令和 3 年 2 月から『ごっくん便り』という広報を発行しています。こちらもご興味がありましたらご覧ください。

Q　これから資格取得を目指す方へのアドバイスをお願いします

分野を問わず、動機がハッキリしていて目指したいところ、やりたい援助が見えている場合は、上司等の周囲の協力を得て是非諦めずに目指して欲しいと思います。私自身 10 年経過した今でも、ブレずに活動していける原動力となっています。

Q　一日のタイムスケジュールを教えてください

時間	内容
8：30　―　9：15	情報収集、病棟のミーティング参加、言語聴覚士と情報交換
9：15　―　12：00 （木曜日は9：00－11：30　摂食嚥下外来）	嚥下評価、嚥下訓練、口腔ケア、食事内容・摂食条件の検討
12：00　―　13：00	食事介助、食事介助指導（スタッフ、患者・家族、施設職員　等）
13：00　―　14：00	休憩
13：30　―　15：30	水曜日は歯科回診・NST回診
15：30　―　17：00	嚥下評価、嚥下訓練、口腔ケア、食事内容・摂食条件の検討
17：00　―　17：15	日誌作成

Q　最後に一言お願いします

入院中だけではなく退院後も在宅で安心して食生活が送れるように、病院の枠を超えて活動しています。個々の在宅生活を支えられるような手助けができればいいなと思っています。

緩和薬物療法認定薬剤師

磐井病院　薬剤科　主任薬剤師
船水　祐里　さん

Q　**資格取得のきっかけを教えてください**

　医療用麻薬について、患者さんに伝わるように説明できなかった苦い経験があり、もっと伝わるように学びたいと思ったのがきっかけです。

Q　**取得までの流れはどうでしたか**

　緩和ケアチームに所属し、研修会や学会等に参加し単位を習得しました。そして、経験してきたことをまとめて、試験に合格すると、認定取得となります。

Q　**研修中の様子を教えてください**

　自身の知識・経験不足や、貢献出来ない事への無力感を感じる事は、多々ありました。しかし、先輩薬剤師や、他職種の方々にも教えていただきながら、薬物療法などを通して患者さんの苦痛が軽減される様子が見られた時は、やりがいを感じました。

Q　**資格取得後の院内での活動を教えてください**

　資格取得前と大きく活動内容は変わらず、緩和ケアチームで活動しています。資格取得に伴い、今まで積み重ねてきた経験が活きる機会が少しだけ増えたような気がします。

Q　**これから資格取得を目指す方へのアドバイス**

　継続して患者さんの元に足を運ぶと、患者さんの訴えを聞けたり、薬物療法の評価がしやすかったです。

Q　**一日のタイムスケジュールを教えてください**

　日によって異なりますが、病棟業務を主として、その他に化学療法業務、調剤室業務などを行っています。チーム医療として、週に 1-2 回程度、緩和ケア、認知症ケア、排尿ケアの活動に参加しています。

Q　**最後に一言お願いします**

　資格取得後も、自身の未熟さを感じたりすることは多々ありますが、継続して努力し続けることが重要だと感じています。共に、患者さんのために少しでも貢献できるように取り組んでいけたら嬉しいです。